

繊維学部資料館

鈴木 史子 (信州大学繊維学部図書館)

はじめに

繊維学部資料館は、平成 22 年（2010 年）4 月 24 日に開館しました。

信州大学繊維学部は、明治 43 年（1910 年）設立の上田蚕糸専門学校から始まり、平成 22 年（2010 年）に創立 100 周年を迎えています。繊維学部資料館は、信州大学繊維学部 100 周年関連事業の 1 つとして旧貯繭庫（ちょけんこ）を整備して、開館しました。

上田蚕糸専門学校は、当時の日本の主要産業であった蚕糸業の発展を目指し、日本初の蚕糸高等教育機関として、また長野県初の国立学校として設立されました。

繊維学部資料館では、上田蚕糸専門学校時代からの貴重な資料を展示しています。その展示物は、草創期の上田蚕糸専門学校にかけられた社会の期待と熱意、そして、教員・学生がその期待と熱意に真摯に応えたことを伝えています。

建物

繊維学部資料館の建物は、貯繭庫（まゆを貯蓄する倉庫）として明治 44 年（1911 年）、上田蚕糸専門学校の開校時に竣工しました。

赤レンガ造の 2 階建てで、屋根は寄棟の瓦葺きです。レンガは、段ごとにレンガの長い方と短い方が見えます。周囲をめぐる装飾・開口部・基礎に色違いのレンガを、開口部と基礎には石も使って、外観にアクセントをつけています。



内部には繭の上げ下ろしに使われたと思われる滑車と床穴が残されています。

開館に伴い、屋根の縁部分と庇（ひさし）を新しく整備しました。

平成 24 年（2012 年）12 月には、国の登録有形文化財として登録するように、文化審議会から文部科学大臣に答申が出されました。官報告示を経て、正式に登録有形文化財に登録される予定です。

しだれ桑

繊維学部資料館の周囲には、開館を記念して植樹された「しだれ桑」があります。しだれ桑は、現在観賞用となっている品種で、通常の桑とは異なり、枝が柳のように枝垂れ（しだれ）ています。

展示内容 : 1階・・・繊維学部^の教育研究の流れ

1. 樺（けやき）のウェルカムボード

正門に立っていた樹齢90年のケヤキを、繊維学部資料館入口の歓迎ボードと庇の垂木（たるき）として加工し、未永く残すことにしたものです。

2. 上田ファイバーの1800年

繊維学部のある上田は、古代よりファイバーと深い関わりがありました。

●紡錘（ぼうすい）：糸によりをかけるための道具。平成21年の繊維学部構内埋蔵文化財調査により弥生時代の地層から出土しました。

●「^{しんせんようさんひしょ}新撰養蚕秘書」塚田與右衛門著（1757年）、「^{ようさんきょうこう}養蚕教弘録上・下」清水金左衛門忠幸著（1847年）（榎本コレクション）：江戸時代に信州上塩尻村（現在の上田市上塩尻）の蚕業家が出版した養蚕技術書

●^{ちいさがたさんぎょう}小県蚕業学校（明治25年開校）、現在の^{ちいさがたさんぎょう}上田東高等学校の記念絵葉書（榎本コレクション）

●上田蚕糸専門学校（明治43年設立）の入学記念写真



「榎本コレクション」は、榎本祐嗣名誉教授（元創造工学系機能機械学課程）が個人的に収集されてきた蚕糸や科学の歴史的資料を、平成20年度に信州大学へ寄贈してくださったものです。

3. 年表、構内のご案内

「繊維学部資料館の開館にあたって」、「信州大学繊維学部100年の歩み」ほか

4. 初代校長針塚長太郎先生関連資料と草創期の上田蚕糸専門学校の写真

針塚先生は38歳で初代校長に任命され、その後四半世紀にわたって校長を務められました。

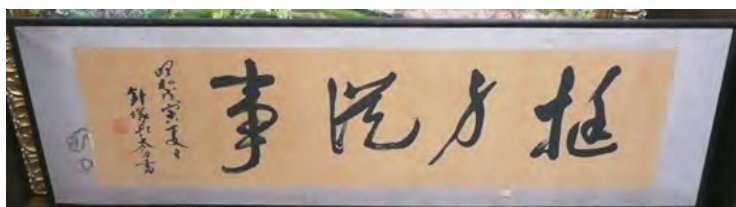
5. 標本・教材

●繭の標本（大正時代）：日本産の繭と海外の繭

●蚕用ふ卵器（インキュベーター）と胚の発生模型（受精卵から幼虫になる過程）

6. 書・日本画

- 「挺身従事」：針塚校長の書。開校以来、上田蚕糸専門学校のモットーとされました。
- 日本画：野口駿尾の画
- 「進徳修業」：高田忠周（竹山）書
- 「止至善」：海軍大将であった八代六郎の書



初代針塚校長は、書を多く書かれ、多数の石碑が残されています。展示しています「上田市内で見つけた針塚長太郎先生墨跡十二ヶ所写真集」は、その石碑を太田和親教授（大学院総合工学系研究科 生命機能・ファイバー工学専攻 スマート材料工学講座）が調べ集められたものです。

展示内容 : 2階・・・歴史的資料・貴重資料

1. 織物見本帳

上田蚕糸専門学校の教材として使われた織物見本帳です。中の織物は、江戸末期から明治時代にかけて製織され、主に宮中・華族などに納められたものと推量されますが、詳しい由来はわかっていません。

2. 生糸商標彙帖（きいとしょうひょういじょう）

輸出用生糸の商標です。上田蚕糸専門学校製糸科2回生が、全国の製糸会社から集めて学校に寄贈した商標で、大正2年（1913年）の開校記念式典で展示されました。官営富岡製糸所などの商標があります。



織物見本帳



生糸商標彙帖

3. 図書（和漢書・翻訳書の貴重本）

和漢書の養蚕技術書、海外で翻訳された日本の養蚕技術書を展示しています。

- ^{うえがきもりくに}上垣守國著「^{ようさん ひろく}養蚕秘録」（1802年）：江戸時代の養蚕技術書。後にフランス語訳も出版されました。
- Trattato sull'educazione dei bachi da seta：イタリア語訳された日本の養蚕技術書
- ^{たけとみかんりょう}武富威亮著「蚕母要覧」（1705年）（榎本コレクション）：日本で2番目に古い養蚕技術書　ほか

4. 装束

- 束帯：六位の武官用關脇袍（けってきのほう）と単（ひとえ）
- 団長衣装・扇：運動会や大学祭で学科ごとに演舞を競った団長の衣装
- 大礼服・燕尾服：初代針塚校長が着用された衣装

5. 養蚕寿古六（ようさんすごろく）・養蚕唱歌（ようざんしょうか）

養蚕啓発のためのものと考えられています。養蚕から始まり、製糸、生糸の輸出、自分と国の繁栄へと進んでいきます。展示しているスゴロクは、^{みよしよねくま}小県蚕業学校の三吉米熊校長が校閲していますので、明治25年（1892年）以降のものと推定されます。

6. 掛け図（上田蚕糸専門学校時代の教材）

全て英語で書かれています。枠下部には「Ueda Imperial College of Sericulture and Silk Industry. Ueda, Japan.」の表記があります。

- 蚕児の解剖：解剖学の教材
- 蚕と桑からの産物：桑、蚕の利用法についての教材



養蚕寿古六



掛け図

7. 錦絵（榎本コレクション）

糸作りや織りというテーマに絞って収集された錦絵です。溪斎英泉、喜多川歌麿、重宣（二代目歌川広重）、初代歌川広重らの錦絵があります。

8. 記念絵葉書（榎本コレクションを含む）

大正2年（1913年）の上田蚕糸専門学校開校式と、大正9年（1920年）の創立10周年記念祝賀会の際に発行された絵葉書です。また、上田の観光名所として一般の絵葉書の題材に上田蚕糸専門学校が取り上げられたものもあります。

9. 座繰り器（ざぐりき）（榎本コレクション）

繭から生糸を繰る道具です。

10. 蚕・蛾の模型（上田蚕糸専門学校時代の教材）

- 「蚕蛾の幼虫」の模型：3つに割れて消化管などの内臓がわかるように作ってあります。
- 「蚕蛾の成虫」の模型
- 提糸（さげいと）：生糸の荷姿の一種です。
- 生糸商標付の生糸

11. 初代針塚校長の書・上田蚕糸専門学校平面図（青焼き図面）

初代針塚校長が書かれた書の掛け軸です。図面は、建物の配置から大正2年以降の図と推測しています。

繊維学部デジタルアーカイブ

織物見本帳、生糸商標彙帖、養蚕技術書の一部などの繊維学部資料館の展示物をインターネットでもご覧いただけます。

- 繊維学部デジタルアーカイブ：<http://www.tex-shinshu-u-da.jp/>

利用案内

- 開館：見学を希望される場合は、繊維学部図書館までご連絡ください。
- 所在地：長野県上田市常田3-15-1（信州大学繊維学部キャンパス内）
- お問い合わせ先：繊維学部図書館 Tel 0268-21-5313

<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/textiles/>